

美里町 全国学力・学習状況調査の概要

教科に関する調査結果から

〈小学校〉 国語と算数においては、県平均正答率を下回るレベルである。
 〈中学校〉 国語・数学・英語、全ての教科において、県を上回るレベルである。

○：よい傾向 ▲：改善の必要あり ⇒：改善策
 () の数値は県平均を100とした場合

	小学校	中学校
国語	64P(94.1) ○送り仮名に注意して、漢字を文中で正しく使うことができる。 ▲原因と結果など物事の因果関係について理解することに課題が見られる。 ⇒文章の読み取りの問題を中心に、条件を入れて文章を書かせる活動を充実させる。	74P(104.2) ○古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容をとらえることができる。 ▲文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみることに課題が見られる。 ⇒習得した漢字や語句を使って、短い作文等を作るなどの取組を充実させる。
算数 数学	58P(93.5) ○示された棒グラフと複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、違いを言葉と数を用いて記述できる。 ▲伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明することに課題が見られる。 ⇒求め方や理由を説明する際に必要な用語を使用させ、わかりやすい説明内容にすることを意識させる取組を充実させる。	56P(107.7) ○数と整式の乗法の計算ができる。 ▲「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」に課題が見られる。 ⇒問題解決学習や授業の振り返りの場面で、自分の考えをアウトプットし、他の生徒の考えを聞き、理解し、自分の考えを発展させる機会を、意図的に設けていく取組を充実させる。
英語		47P(102.2) ○疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問を正確に書くことができる。 ▲「日常的な話題について、短い文章の概要を捉えること」に課題が見られる。 ⇒「何のために読むのか」を意識させた授業づくりをしていき、継続して自分の考えや思いを整理して書くトレーニングを行い、英語での伝え方を実践的に習得できるようにしていく取組を充実させる。

児童生徒に対する質問紙調査結果から

児童生徒の自己有用感が県平均に比べて全般的に高い。家で自分で計画を立てて勉強している(学校の授業の予習や復習を含む)と回答している児童生徒の割合が高い。学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている児童生徒の割合が高い。

※：傾向 ○：よい傾向 ▲：改善の必要あり ⇒：改善策

小学校	中学校
○「自分には、よいところがある」と回答している児童生徒の割合が高い。 ○「将来の夢や目標をもっている」と回答している児童生徒の割合が高い。 ○「家で自分で計画を立てて勉強している」(学校の授業の予習や復習を含む)と回答している児童生徒の割合が高い。 ○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている児童生徒の割合が高い。 ○5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したと回答する児童の割合が高い。 ▲学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動の経験が県平均に比べて低い。 ⇒振り返りを活用しながら、考えたことについて自らの言葉でアウトプットできるように指導を続けていく。 ▲学校の授業時間以外に、普段(月曜から金曜日)、1日当たりの読書時間が県平均より短い。 ⇒読書について業前の時間を効果的に利用したり、授業で取り上げたりしていく。	○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答する生徒の割合が高い。 ▲外国人の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う生徒が県平均に比べて低い。 ⇒英語の授業やALTとの交流を有効的に活用していく指導をする。

調査結果を受けての改善に向けた取組

今後の改善に向けて、「美里町教育スタイル」を活用し、共通行動の下、日々の授業改善を重点に取り組んでいく。そのために、教育委員会が訪問する「日常の授業参観」を実施して、授業者に効果的なフィードバックを行っていく。また、振り返りに焦点を当てた活動に取り組んでいく。そして、美里町学力向上推進会議で課題と今後の取組を検証し、よい事例について4校で共有するなどして、来年度へとつなげていく。

美里町立美里中学校 全国学力・学習状況調査の概要

教科に関する調査結果から

国語では、無解答の生徒が全国平均より少ないという結果であった。
数学では、全体で 5.0P 全国平均を上回ることができた。
英語では、「書くこと」の項目が全国平均を大きく上回った。

【国語】

○無答は全国平均 10.7P に対し、本校 9.6P であった。

▲「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、「オシ量る」の漢字の書き取りが、全国平均が 43.9P、本校が 36.1P であった。

⇒新出語句や単語の意味を辞書を引いて確かめる学習活動を行う。新出漢字や、授業内で取り上げた語句を実際の場面で使えるように指導する。週 1 回の漢字テストの中で出てきた漢字を使い、短作文を書かせる。

【数学】

○全体で 5.0P 全国平均を上回ることができた。

⇒一次関数の関係を詳しく考察したり、様々なパターンの問題に触れたりする機会を作る。グラフの傾きの違いや y 軸との関係、交点の意味や求め方など、直線の表す意味に注目し、問題を考える時間を作る。問題に取り組む際の注意点や、情報の抜き出し方などを類似問題に取り組む際にマーカーで色分けするなどの工夫をルール化し、ポイントを押さえながら読み取れるようにする。

改善に向けた取組

今後の改善に向けて、「美里町の教育スタイル」を活用し、共通行動の下、日々の授業改善を重点に取り組んでいく。授業研究部を中心に教科を超えた相互授業参観を実施し、授業者だけでなく、参観者も振り返りを習慣的に行う。また、振り返りだけでなく、授業中のアウトプットを中心に、自分の考えを相手が見えるように表現し、生徒が学ぶ授業を展開する。そして、生徒の学力を伸ばしている授業、特に活動が活発になる発問や、教師のファシリテーターとしての役割に焦点を当てて研究をしていくと共に、生徒自身のリーダーシップとフォロワーシップの育成に力を入れ、来年度につなげていく。

【英語】

○「書くこと」の項目は、全国平均 23.4P に対し、本校は 29.4P であった。

▲「読むこと」の項目が、全国平均 51.2P に対し、本校は 49.6P であった。具体的な問題として、情報を正しく読み取り活用する能力、概要を捉える能力に課題が見られる。

⇒文章中の情報を整理し、図と照らし合わせて考えさせる。一番言いたいことが書かれている文にマーカーを引かせる。授業の中で入試問題等を活用し、長文を読む習慣をつける。

生徒に対する質問紙調査結果から

読書量、図書館利用頻度が全国に比べ低いという結果が出ている。
昨年に比べ、授業内での PC・タブレット利用頻度が高まり、全国平均を大きく上回った。しかし、教科間に差が見られた。
数学や英語では、好きではないが、大切であると感じている生徒が多い。

○昨年の課題であった、授業内での PC・タブレット利用頻度が高くなった。

○課題に挙げた項目以外は、概ね全国平均を上回っている。

▲読書量、図書館利用頻度が全国に比べ低い。

→図書委員会を主体とした活動の実施や、学期ごとに「図書室の利用の仕方」を各クラスで実施する。

▲数学や英語では、好きではないが、大切であると感じている。

→もっと身近で生徒の生活に関連した、楽しめる導入を研究することで、やっつけて楽しいと感じるようにすることや、達成感を感じやすい授業構成を考え実施する。